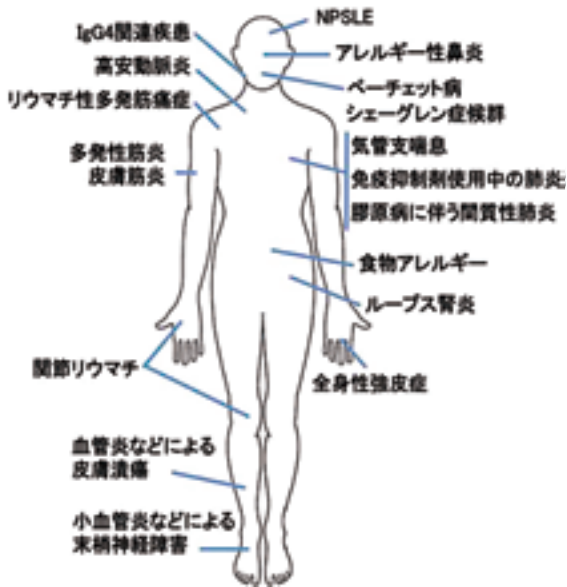


内科専門研修プログラム

サブスペシャリティ重点コース / 免疫内科コース

免疫は疫病を免れるため病原微生物などの有害な非自己を排除する生体防御機構です。「免疫内科」は免疫の仕組みが自己組織を攻撃する「自己免疫疾患」、炎症が不適切に持続する「慢性炎症性疾患」、特定の成分に過剰に反応する「アレルギー疾患」、免疫機能が低下する「免疫不全症」など、免疫が関与するさまざまな疾患を専門に診療する内科です。市中病院や他大学では「リウマチ科」、「膠原病科」、「アレルギー科」などの名称で診療されますが、いずれの疾患も病気の成り立ちに免疫が関与することから私達は「免疫内科」と標榜して診療しています。



リウマチ性疾患は生涯に女性 8%、男性 5% が罹患し、また、国民の半数以上が何らかのアレルギー疾患に悩むといわれています。こうした免疫疾患によって冒される臓器は肺、血液、腎臓、関節、皮膚、筋肉、神経など多岐にわたり、からだ全体に深く注意を向けます。問診、診察、血液・画像検査、治療経過で「全身を診る」ことを意識し、内科専門医の研修過程では内科医としての基礎的診療能力をしっかり身につけることが重要です。その後に免疫疾患の専門研修に進みます。

免疫疾患の診療研修は大阪大学医学部附属病院に加えて、大阪府内、兵庫県東部を中心とした教室関連病院で専門性の高い研修が可能です。研修過程で内科専門医、リウマチ専門医、アレルギー専門医を取得し、標準的な免疫疾患の診断治療を他科とも協力しながら一人でできるようになることを目標とします。基礎免疫学から免疫疾患の病態まで含めた免疫学に明るくなり、免疫関連分子を標的とする生物学的製剤や信号

伝達阻害剤などを用い、リスク評価とともに免疫システム介入に習熟した医師を養成します。免疫学の専門的立場に立脚しながら、様々な疾患や各臓器の障害において広い視野を持つ臨床医を目指します。また、免疫と感染症は表裏一体であり感染症に詳しくなります。免疫疾患は関節痛を伴う事が多く関節の診療にも詳しくなります。他の専門医研修を受けた後、免疫内科専門医コースに移ることも可能です。免疫疾患を含む総合内科的な診療を行う関連病院もあります。

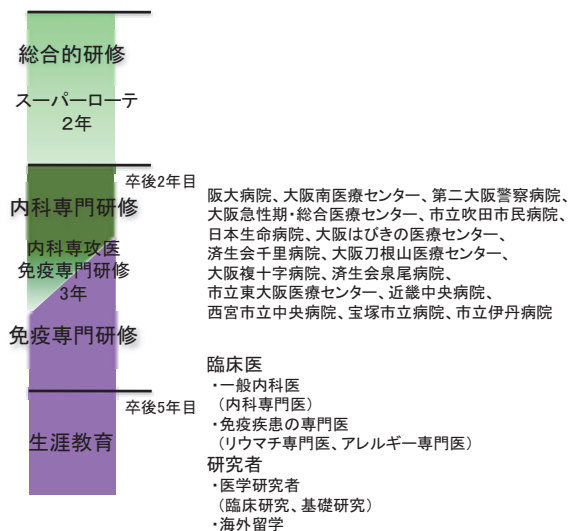
「近代免疫学の父」エドワード・ジェンナーによる天然痘予防の種痘法は日本では大阪の緒方洪庵の適塾に除痘館として引き継がれ、適塾は当時ワクチンセンターの役割を担いました。適塾は日本における近代免疫学発祥の地であり、大阪大学医学部の源流です。20 世紀から 21 世紀にかけて、大阪大学ではサイトカインとその受容体、免疫担当細胞の分化制御機構、微生物に対する初期応答機構、セマフォリンなど新しい免疫制御分子群の発見など、多くの優れた免疫学者が活躍して免疫の仕組みを分子生物学の手法を用いて精力的に解明してきました。大阪大学の免疫学研究は世界の主要研究機関の中ではトップ(Thomson Reuters Essential Science Indicators)の評価を受けています。

こうした免疫学の成果を臨床現場に導入することが臨床教室である大阪大学免疫内科の役割です。例えば、大阪大学の IL-6 研究から生まれた国産初の抗体医薬である抗 IL-6 受容体抗体（トシリズマブ）は当科で臨床導入され、現在は世界中に広まり、関節リウマチや大血管炎などの炎症性疾患を劇的に改善させます。数年間医師として診療に携わると標準的医療では良い結果が得られない状況に出会い、

「先生、なんとか治して下さい」と訴えられることがあるでしょう。なぜこうした病態が生じるのか疑問を持った時に解決する糸口となるのが研究活動です。新しい領域を開拓する研究者に憧れを抱いたことのある方には、是非、研究にも挑戦して下さい。大阪大学大学院医学系研究科呼吸器・免疫内科学教室や、基礎医学教室での大学院進学を紹介します。キャリアの中で研究現場と臨床現場を行き来しながら専門性を高めて行くことができます。



(1) 免疫内科専門研修コースの全体像と関連病院



(2) 免疫疾患の専門研修が可能な病院

コース名： 免疫内科コース				
医療機関名	診療科名	専門分野名	指導者数	目的
大阪大学医学部附属病院	免疫内科	内科総合 免疫疾患	24名	基礎的内科研修 専門的研修 臨床研究、基礎研究
国立病院機構大阪南医療センター	リウマチ・膠原病科	内科総合 免疫疾患	6名	基礎的内科研修 専門的研修、臨床研究
第二大阪警察病院	膠原病・リウマチ科、 アレルギーセンター	内科総合 免疫疾患	4名	基礎的内科研修 専門的研修、臨床研究
大阪急性期・総合医療センター	免疫リウマチ科	内科総合 免疫疾患	2名	基礎的内科研修 専門的研修
日本生命病院	総合内科	内科総合 免疫疾患	2名	基礎的内科研修 専門的研修
公立学校共済近畿中央病院	免疫内科	内科総合 免疫疾患	3名	基礎的内科研修 専門的研修
大阪はびきの医療センター	アレルギー内科	アレルギー疾 患	4名	専門的研修 臨床研究
市立吹田市民病院	呼吸器・リウマチ科	内科総合 免疫疾患	2名	基礎的内科研修 専門的研修
済生会千里病院	免疫内科	内科総合 免疫疾患	1名	基礎的内科研修 専門的研修
市立東大阪医療センター	免疫内科	内科総合 免疫疾患	1名	基礎的内科研修 専門的研修
宝塚市立病院	リウマチ科	内科総合 免疫疾患	1名	基礎的内科研修 専門的研修
大阪複十字病院	内科	内科総合 免疫疾患	2名	専門的研修
済生会泉尾病院	内科	内科総合 免疫疾患	2名	基礎的内科研修 専門的研修
大阪刀根山医療センター	呼吸器内科	呼吸器・免 疫疾患	1名	専門的研修 臨床研究
西宮市立中央病院	内科	内科総合 免疫疾患	2名	基礎的内科研修 専門的研修
市立伊丹病院	アレルギー疾患リウ マチ科	内科総合 免疫疾患	3名	基礎的内科研修 専門的研修
JCHO 大阪病院	免疫内科	内科総合 免疫疾患	1名	基礎的内科研修

(3) 免疫内科関連病院での実績

大阪大学医学部附属病院を含む免疫内科関連 17 病院全体で免疫疾患の患者を多数経験できます。関連病院全体で通院患者数は関節リウマチ約 4 千人、気管支喘息約 5 千人、全身性エリテマトーデス約 9 百人、全身性強皮症 4 百人、混合性結合組織病約 2 百人、多発性筋炎/皮膚筋炎約 3 百人、シェーグレン症候群約 5 百人にのぼり、大阪圏のみならず近畿地方から免疫疾患患者が集積しています。また、大～小血管炎の各種血管炎、関節リウマチと鑑別を要するリウマチ性多発筋痛症、RS3PE 症候群、強直性脊椎炎、乾癬性関節炎、あるいは再発性多発軟骨炎やキャッスルマン病などの稀少疾患、IgG4 関連疾患、気管支喘息、好酸球増多症など多彩な免疫疾患を経験することが可能で、鑑別方法や治療経験を積んで行くことができます。

(4) 免疫内科関連病院での指導状況

各関連病院にあわせてリウマチ学会の評議員 15 名、指導医 42 名、専門医 69 名を擁し、病院毎に 1 名以上の常勤専門医が指導に当たっています。また、アレルギー学会は指導医 1 1 名、専門医 1 7 名を擁し、10 教育認定施設で常勤専門医が指導に当たっています。また、大学と関連施設共同で教育研究交流を目的とした研究会である OID (Osaka Immunological Disease) カンファレンスを年 2 回行い、指導の充実を図っています。

(5) 専門医の取得等

学会等名	日本専門医機構
資格名	膠原病・リウマチ内科専門医
資格要件	基本領域を内科専攻が条件。3年の専門医研修カリキュラムで臨床研修を行い、9疾患群のうち7疾患群以上から120症例以上（関節リウマチ12例含む入院40例以上、関節リウマチ24例含む外来80例以上）の主担当医として経験し、J-OSLERに登録する。外来症例（30例）入院症例（10例）は査読を受ける。研修30単位以上の取得も必要。
学会の連携等の概要	15施設が認定教育施設となっている。

学会等名	日本アレルギー学会
資格名	アレルギー専門医
資格要件	5年以上学会員であること。基本領域学会認定医/専門医であること。6年以上の臨床研修歴（専門医研修カリキュラムに従って3年以上はアレルギー専門医教育施設）。40名以上の診療実績（最近5年）。2例の症例報告書。50単位以上の業績（最近5年間、学術大会2回、講習会1回参加）。専門医試験に合格すること（年1回）。
学会の連携等の概要	10施設が認定教育施設となっている。

リウマチ、膠原病領域は内科専攻医研修を条件に、新専門医制度によるリウマチ、膠原病内科専攻医研修が 2022 年 4 月から研修開始されています。

アレルギー領域は学会認定の専門医制度が続いており、新制度開始が延期となっています。今後の詳細は日本専門医機構のホームページを参照ください。



免疫内科病棟カンファ

問い合わせ先

■ 大阪大学医学部附属病院 免疫内科

担当者 檜崎 雅司

✉ mnarazaki@imed3.med.osaka-u.ac.jp

診療科ホームページ <http://www.imed3.med.osaka-u.ac.jp/training/t-immu01.html>

